



東京大空襲の状況を、
ともに語る平井氏
と、
実体験と

戦争被災体験談を通して「平和」を学ぶ 中学生を対象とした平和祈念講話

次代を担う中学生に、実際の戦争被災体験談を通して、平和の尊さを理解してもらい、戦争体験等を語り継いでもらうため、6月7日、鳩山中学校で「平和祈念講話」が行われ、300人を超える同中の全生徒および教職員が話に聞き入りました。講師の平井魚葉氏(松ヶ丘)は、自身が中学生のときに被災した東京大空襲の話や軍需工場での勤務状況のほか、当時の学徒総動員や終戦後の生活などを、当時の写真資料などを交えて語りました。

講話の途中には、「死体はどこに運んだのですか」「一番つらかったことは何ですか」「戦争中に流行った病気は？」など、次々と生徒たちから質問が上がり、その一つ一つに平井氏が丁寧に答えていました。

講話の最後には「世界では今も戦争をしている所もある。自分たちが手にしている今の平和をもっと噛み締めて、楽しく、みんな仲良く生きてほしい。そして今日の話を家族でぜひ話題にしてほしい」と呼びかけました。

Voice 講演を終えた鳩山中学校生徒からの声をお届けします。

- ◆戦争のために動物園で猛獣や象を殺したり、自分たちと同じ年の人たちが戦いの仕方を習ったりと、話を聞いて戦争の怖さを知り、改めて平和の大切さを感じました。
 - ◆私たちと同じ中学生が工場で働かされたり、竹やりの訓練をうけるなど、命に関わる仕事をしているのに、その日に食べられるものが少なかったり、食べられなかったりと、大変だったのだと思いました。
 - ◆資料を見て、人々が必死に生きようともがいている姿はとても印象的でした。今日の話聞き、私は、日々感謝の気持ちを持ちながら生活していきたいと思いました。
- ※講演後の感想文を、28ページの「伝承鳩」でもご紹介しています。

歯の健康自慢が大集合 “よい歯のコンクール”町内で4人が受賞

6月5日、東松山市保健センターで行われた「8020よい歯のコンクール」・「親子のよい歯のコンクール」(比企郡市歯科医師会主催)で、鳩山町から4人が優良賞を受賞しました。

80歳以上で自分の歯が20本以上ある健康な方を表彰する「8020よい歯のコンクール」では、西澤幸一さん(熊井)と金子保さん(松ヶ丘)が受賞。歯の健康に自信のある幼児とその父母が参加する「親子のよい歯のコンクール」では、小川早恵子さん・真由ちゃん(松ヶ丘)親子が受賞しました。

(写真左から) 西澤さん、金子さん、小川さん親子



埼玉県消防協会西入間支部 消防ポンプ操法大会

迅速さと安全性の消防技術を競う、「第18回埼玉県消防協会西入間支部(毛呂山町、鳩山町、越生町)消防ポンプ操法大会」が5月29日、毛呂山総合公園で開催され、3町の消防団員たちが訓練の成果を出し合いました。なお、大会の結果は以下のとおりです。

【小型ポンプの部】優勝：毛呂山消防団第3分団、準優勝：毛呂山消防団第4分団、第3位：越生消防団第6分団 【ポンプ車の部】優勝：毛呂山消防団第3分団、準優勝：越生消防団第4分団、第3位：越生消防団第1分団

鳩山消防団は、小型ポンプの部で、第3分団の八巻純一(班長)と新井康太(2番員)が、優秀賞に選ばれました。



全力で取り組む姿がキラリと光った 町内の小中学校で運動会・体育祭

5月21日に鳩山小学校、今宿小学校、亀井小学校で運動会が、5月28日には鳩山中学校で体育祭が開催され、児童・生徒らに大きな声援が送られていました。

今宿小学校では、全児童が2組に分かれ、今年のスローガン「君ならできる ゆう勝めざして つきすすめ」を元に、全力で競技に取り組んでいました。(写真①②)また、鳩山中学校では、各学年に渡る混合チームを4団編成し、団長を中心に一致団結して、各自が力の限りを尽くしていました。(写真③④)



大声援が飛び交った「台風の目リレー」



力を合わせた「綱引き」



心を一つにした「組体操」

息を合わせてゴールへまっしぐら「大玉コロコロ58」



25組の出演者が熱意あるステージを披露 第21回「だれでもチャレンジステージ」

6月12日、町文化会館で「第21回だれでもチャレンジステージ」が行われ、町内で活動している25団体(個人含む)の方たちが、ダンスやお囃子、合唱など、多彩な発表で来場者を楽しませました。

参加者からは、「子どもから年配の方まで楽しめるイベントに感動した」「多彩な人材が大勢住んでいることに驚いた」「子どもがこういったステージに立てる機会が少ないためとてもいい」「出演者と見ている方との関わりを感じることができるアットホームな雰囲気がとても良かった」などといった声が上がっていました。

各組の発表後は、拍手や歓声が上がりました。

将来の“博士”を目指して 「子ども大学はとやま」が開講

東京電機大学で6月4日、「子ども大学はとやま」の入学式と講義が行われ、全6回の講義を受ける町内30人の児童が入学しました。

第1回の講義は「パンを作ろう パンの不思議を体験しよう」。同大生命理工学系の椎葉 究教授から講義を受けた後、実際にパンを作って食べたり、小麦粉を発酵させ二酸化炭素を出す実験やグルテンの取り出し実験をしました。子どもたちは、「小麦粉の性質がよく分かり、勉強になった。自分たちで作った焼きたてのパンもとてもおいしかった」と話していました。



小麦粉を発酵させ、二酸化炭素を出す実験にみんな釘付け